

2025年6月期
第2四半期（中間期）
決算説明会資料



証券コード1382 株式会社 ホープ

2025年2月14日



会社概要

■ 会社名	株式会社ホーブ
■ 代表取締役社長	政場 秀
■ 設立	1987年6月
■ 本社所在地	北海道上川郡東神楽町
■ 資本金	4億2125万円
■ 発行済株式総数	762,000株
■ 従業員数	43人（連結）23人（個別）
■ 事業所	北海道本社／東京本部
■ 連結子会社	株式会社エス・ロジスティックス



事業内容

事業区分（セグメント）および事業内容

事業区分	事業内容
いちご果実・青果事業 (当社)	いちご果実（自社品種・その他いちご）、青果、 農業用資材等の仕入販売
種苗事業 (当社)	自社いちご品種、その他種苗の生産と販売
馬鈴薯事業 (当社)	種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売 青果馬鈴薯の仕入販売等
運送事業 (株式会社エス・ロジスティックス)	運送業務

業績の概要



連結業績

(単位：百万円)

	2025.6期 第2四半期	2024.6期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
売上高	1,272	1,416	△143	△10.2
売上総利益	296	306	△10	△3.4
営業利益	35	35	0	0.6
経常利益	36	36	0	0.1
親会社株主に 帰属する 中間純利益	22	19	3	16.7



セグメント別売上高

(単位：百万円)

	2025.6期 第2四半期		2024.6期 第2四半期	増減率 (%)
		構成比 (%)		
いちご果実・青果事業	1,151	89.2	1,263	△8.8
種苗事業	2	1.7	24	△90.3
馬鈴薯事業	51	3.9	55	△7.4
運送事業	67	5.2	73	△9.0
連結	1,272	100.0	1,416	△10.2



セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	2025.6期 第2四半期	2024.6期 第2四半期	増減率 (%)
いちご果実・青果事業	107	95	12.1
種苗事業	△4	17	—
馬鈴薯事業	5	1	208.9
運送事業	8	5	56.0
調整額※	△81	△84	—
連結	35	35	0.6

※調整額は主にどの部門にも帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

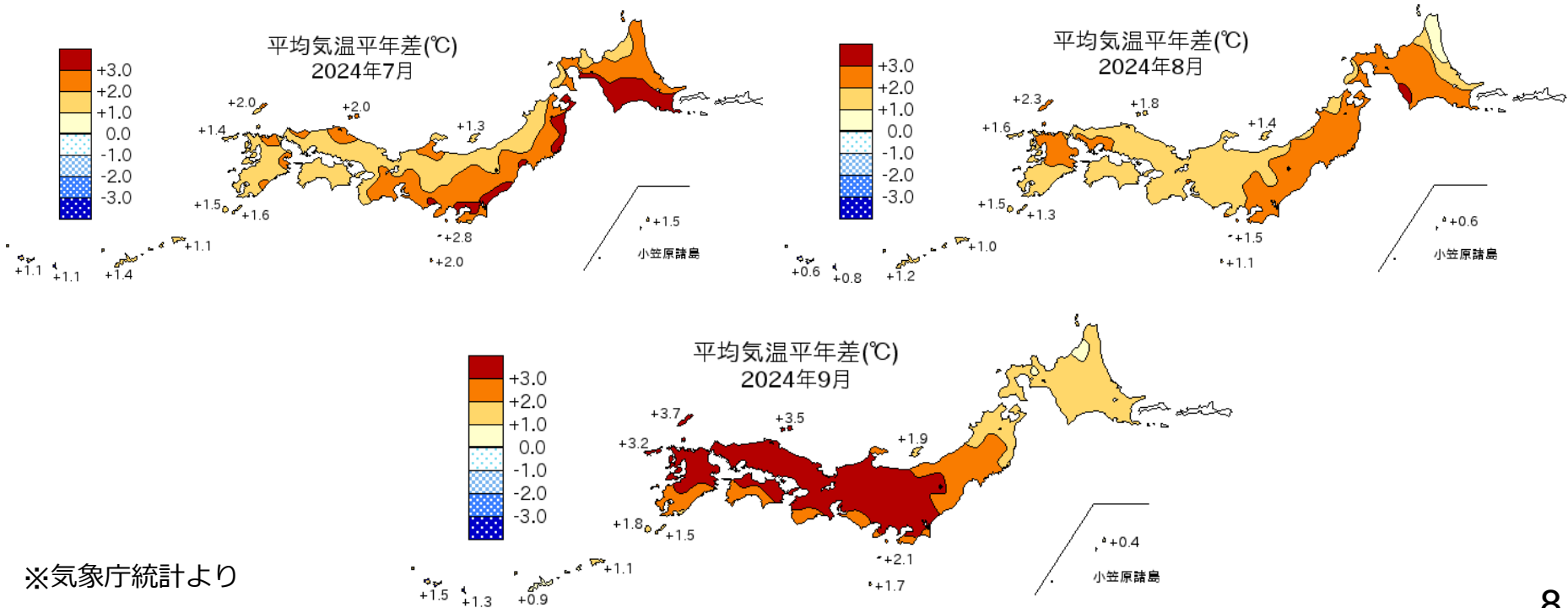
セグメント別の状況



いちご果実・青果事業—夏秋期の気象条件—

- 北海道は一時期高温となる時期があったが、前年ほど残暑は厳しくならず。
- 一方で本州は9月以降も高温の状態が続き、記録的な残暑となる。

2024年 7~9月 平均気温平年差

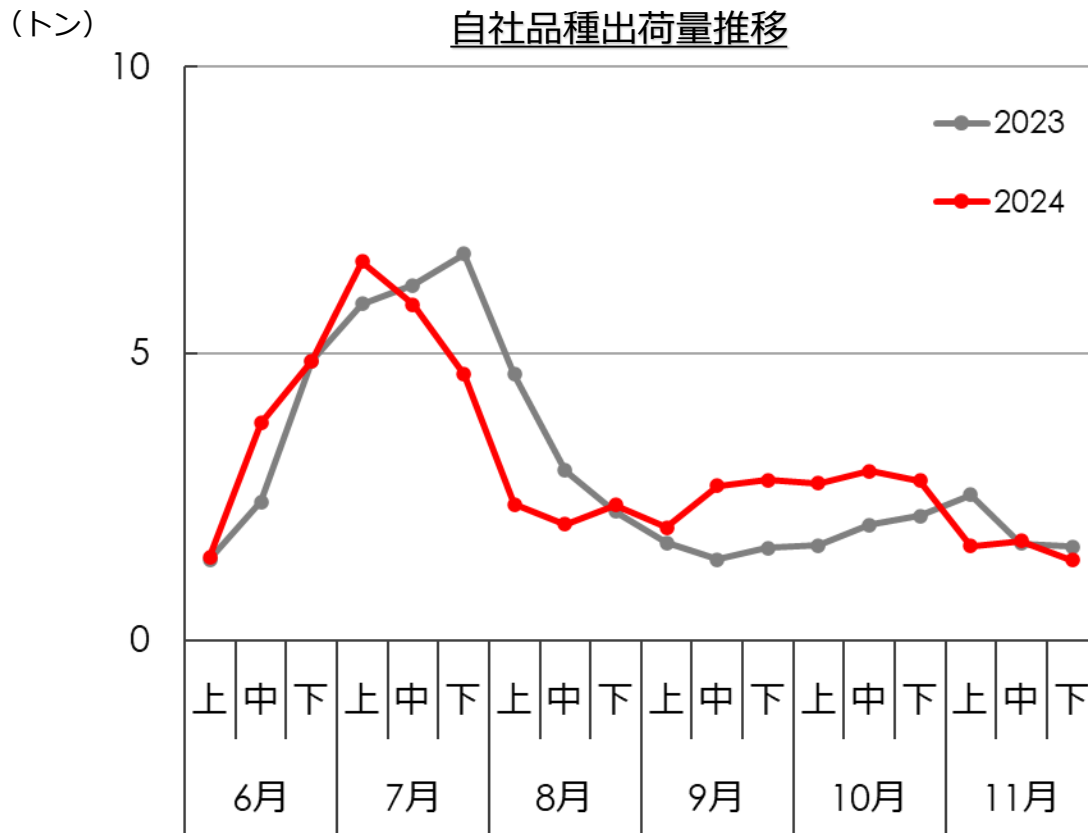


※気象庁統計より



いちご果実・青果事業—自社品種の出荷状況—

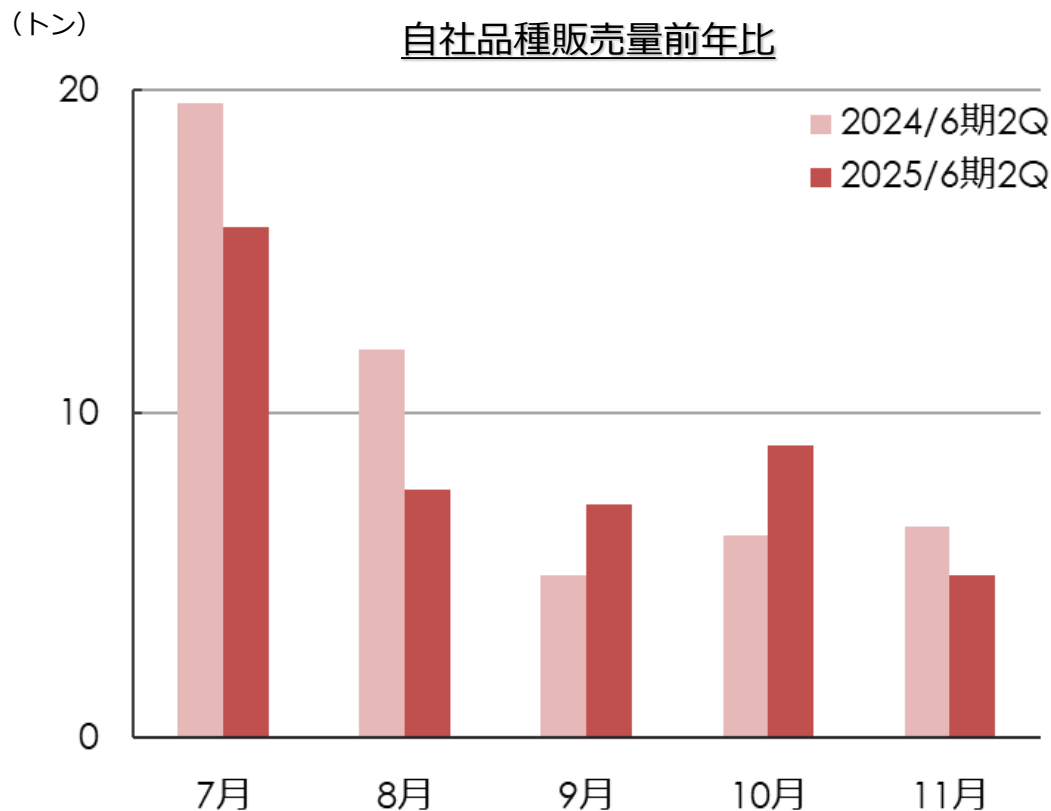
- 猛暑となることを想定し、高温の影響をなるべく軽減するために早めに株を休ませ回復を図る。
- 記録的な残暑の影響を受けた前年に比べ秋の収穫量は増加。





いちご果実・青果事業—自社品種の販売状況—

- 自社品種「夏瑞／なつみずき」の販売は生食用向け、業務用向けともに引き続き好調に推移。
- 前年ほど残暑の影響は長引かなかったものの、高齢化による栽培面積の減少もあり、7～11月の自社品種の販売数量は減少。

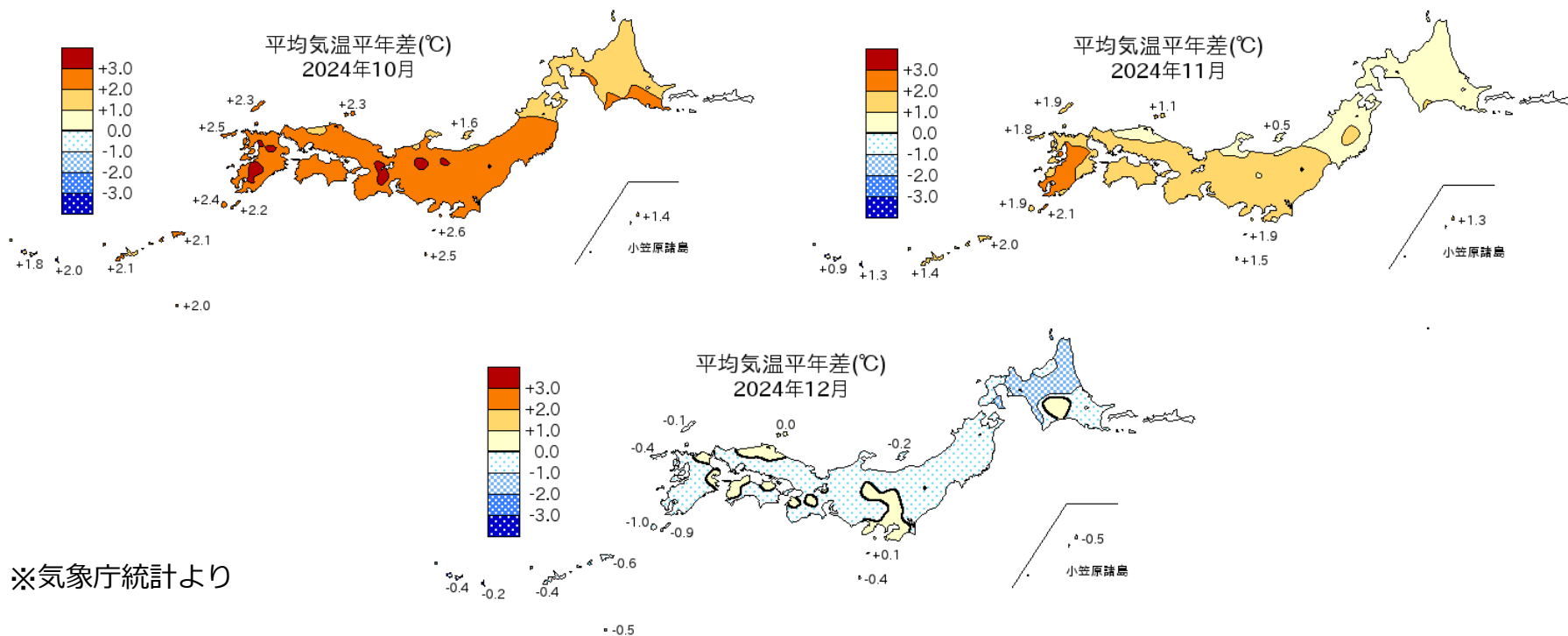




いちご果実・青果事業—クリスマス期の気象条件—

- 10,11月は全国的に気温が高く、特に10月は気象庁統計史上の最高値を記録。
- 12月に入り、寒気の影響でクリスマスにかけて平年よりも気温の低い日が続く。

2024年 10~12月 平均気温平年差



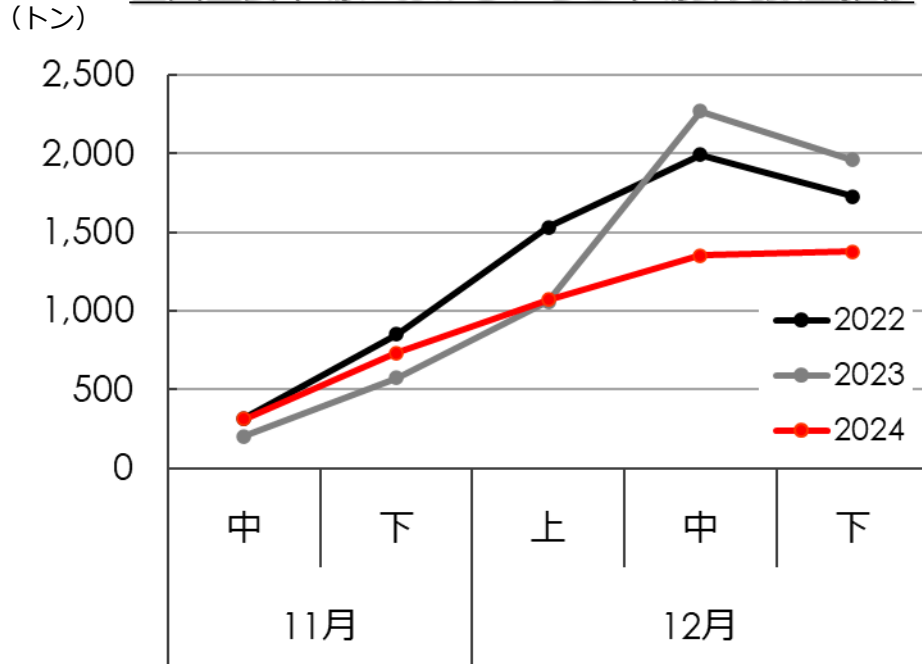
※気象庁統計より



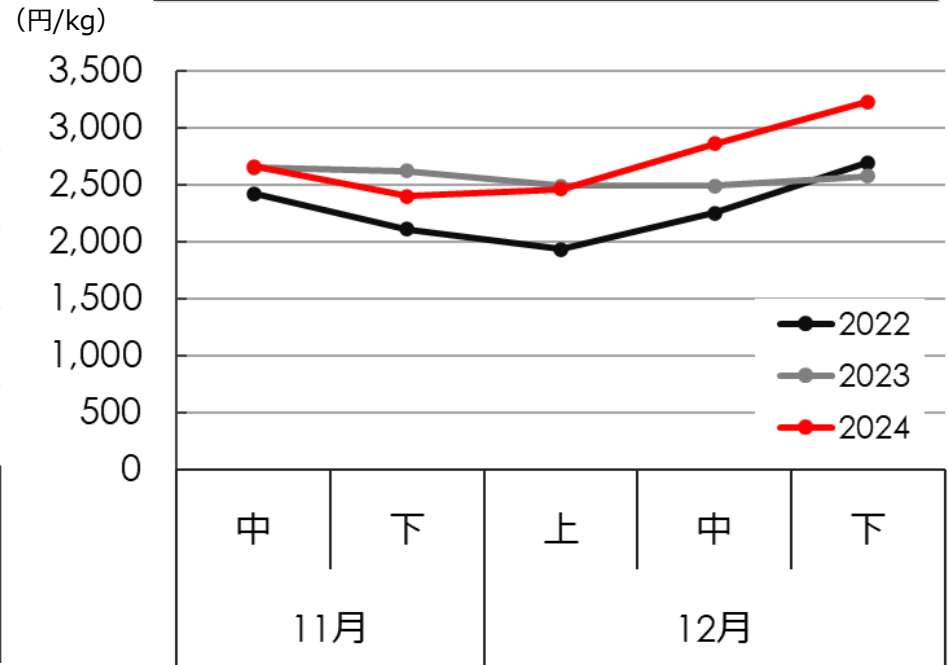
いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況①—

- 猛暑の影響により定植時期は若干の遅れがあったものの、その後は温暖な気象条件が続いたため生育は前進傾向となる。
- 11月の市場へのいちご果実入荷量は前年を上回ったが、12月は寒波の影響もあり大玉から順次減少した。

全国主要市場におけるいちご市場卸売数量推移



全国主要市場におけるいちご市場相場価格推移



※農林水産省統計より

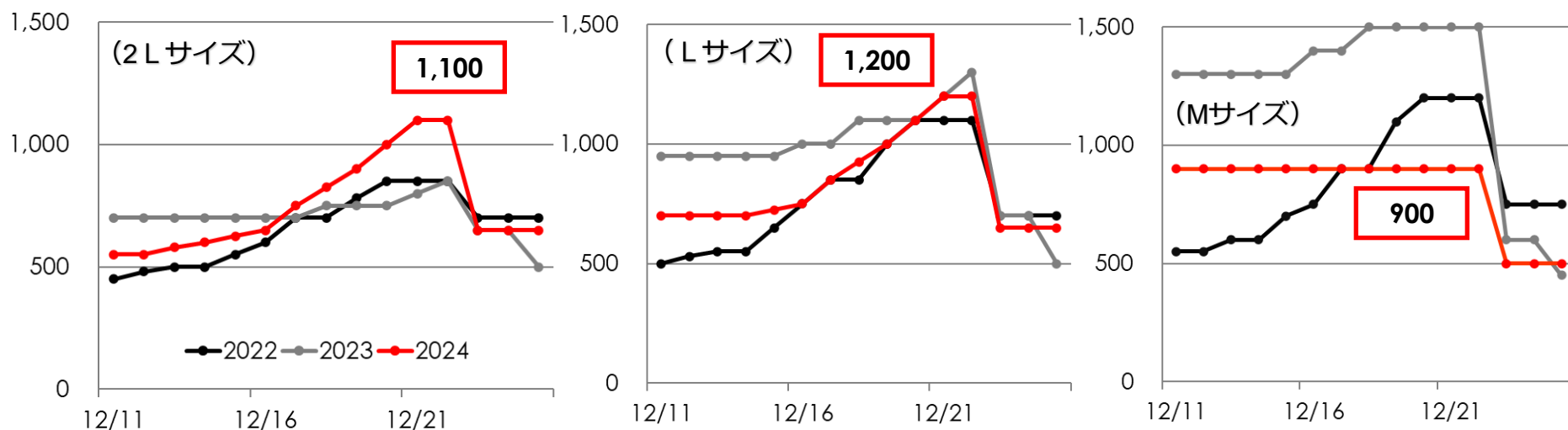


いちご果実・青果事業—クリスマス期の状況②—

- 物価高による消費者の節約志向と原材料費の高騰を受け、取引先のいちご果実の使用量は減少。
- 業務用サイズについては、昨年までのL、Mサイズ中心から2L、Lサイズ中心へと需要がシフトし、市場相場価格はクリスマスにかけて順次上昇する。
- 猛暑の影響と大玉品種への切替による業務用サイズの不足を想定し、全国の生産地から計画的な調達を行う。仕入数量を確保できたことで、クリスマス時期に特に品薄となった西日本エリアへ供給。

大田市場におけるいちご市場相場価格推移（業務用サイズ）

(円/パック)

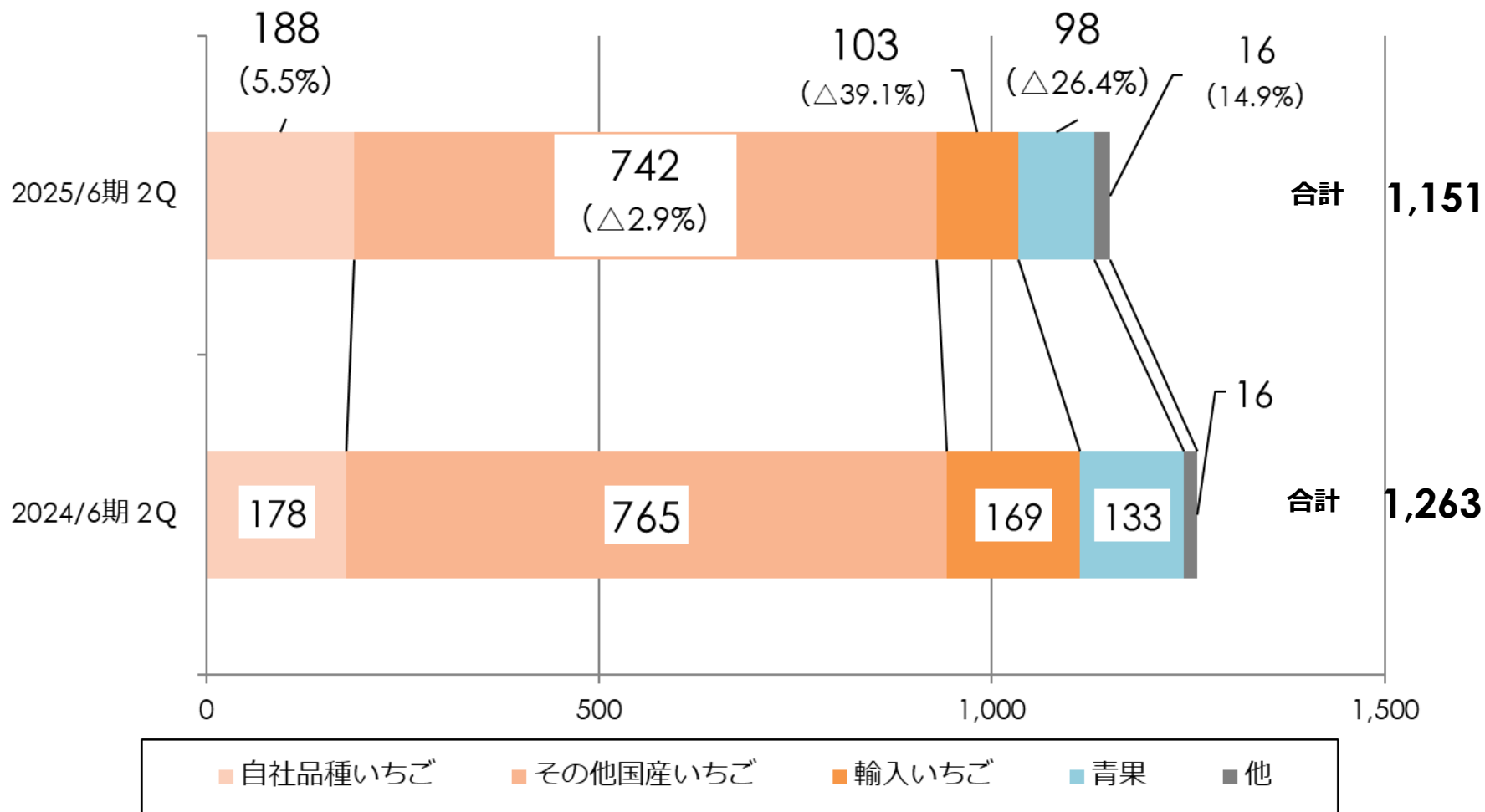




いちご果実・青果事業一品目別売上高

(単位：百万円)

(%：前年比増減率)

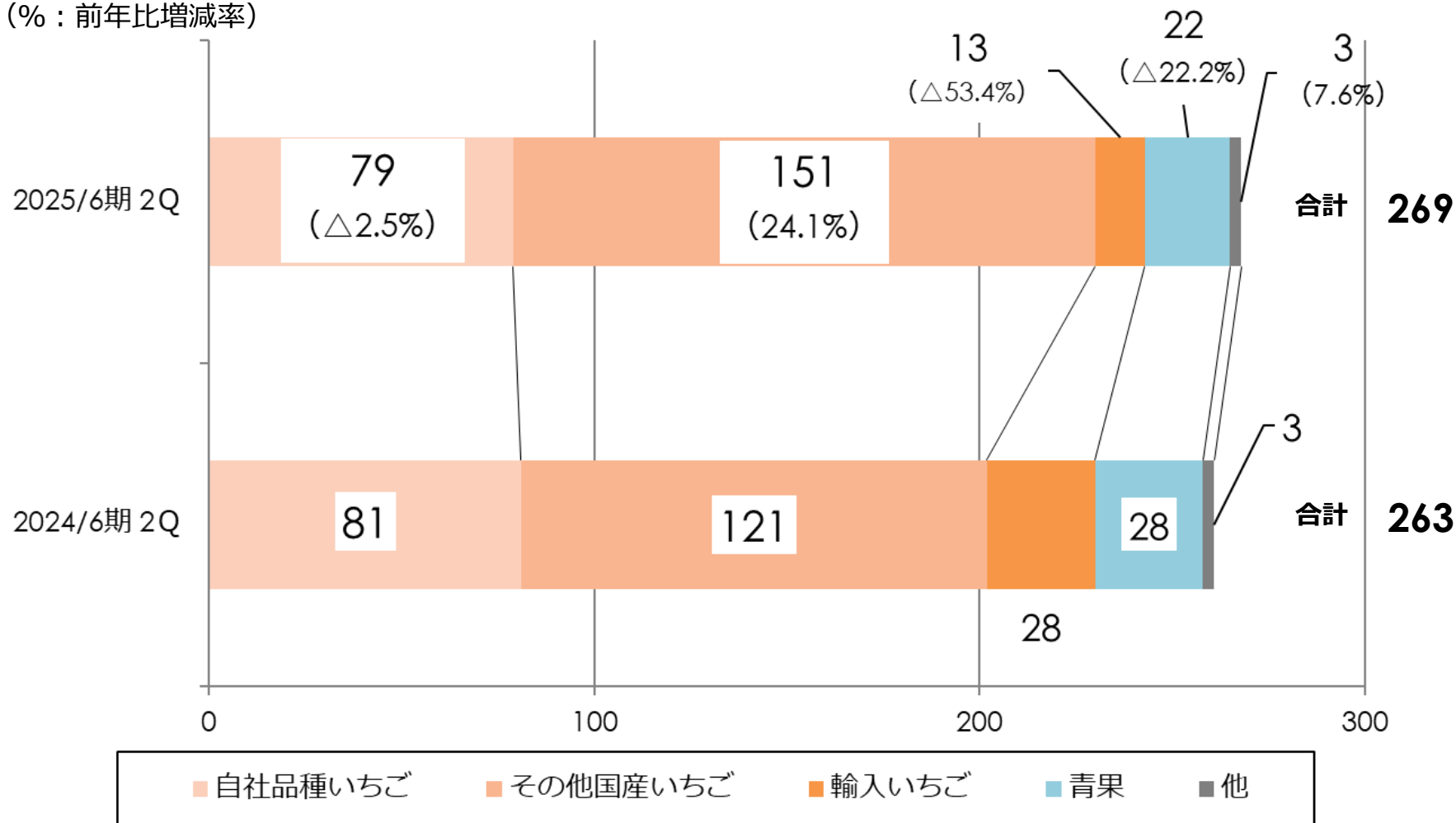




いちご果実・青果事業一品目別総利益一

(単位：百万円)

(%：前年比増減率)



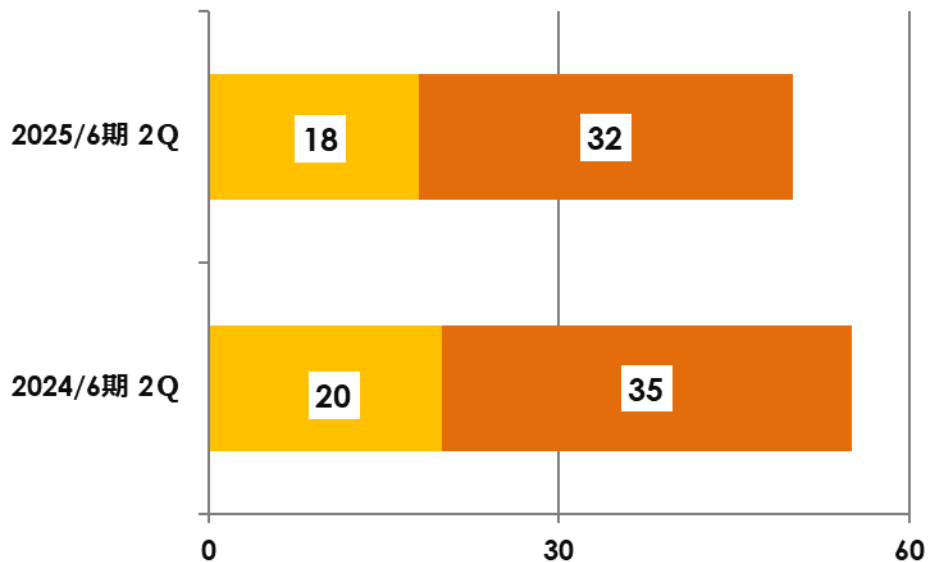


馬鈴薯事業

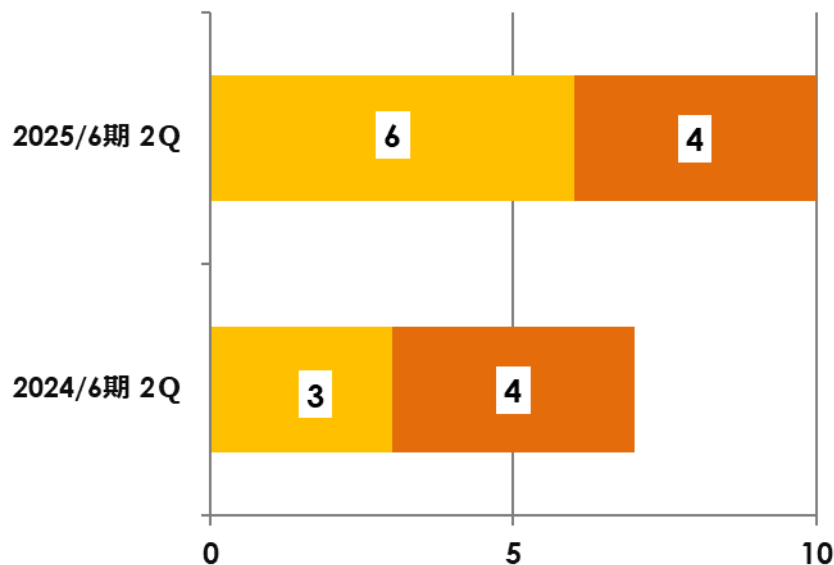
- 秋作向けにおいて前年度の原種生産の不作により本年の種馬鈴薯生産が減少したため、種馬鈴薯の供給が不足。
- 春作向けは取扱数量が減少したものの、仕入価格の上昇に伴い販売価格の見直しを行ったことで利益は確保。

2 Q馬鈴薯事業の売上高比較

(単位：百万円)



2 Q馬鈴薯事業の総利益比較



■ 種馬鈴薯 (オリジナル) ■ 種馬鈴薯 (一般) ■ 青果馬鈴薯等 ■ その他

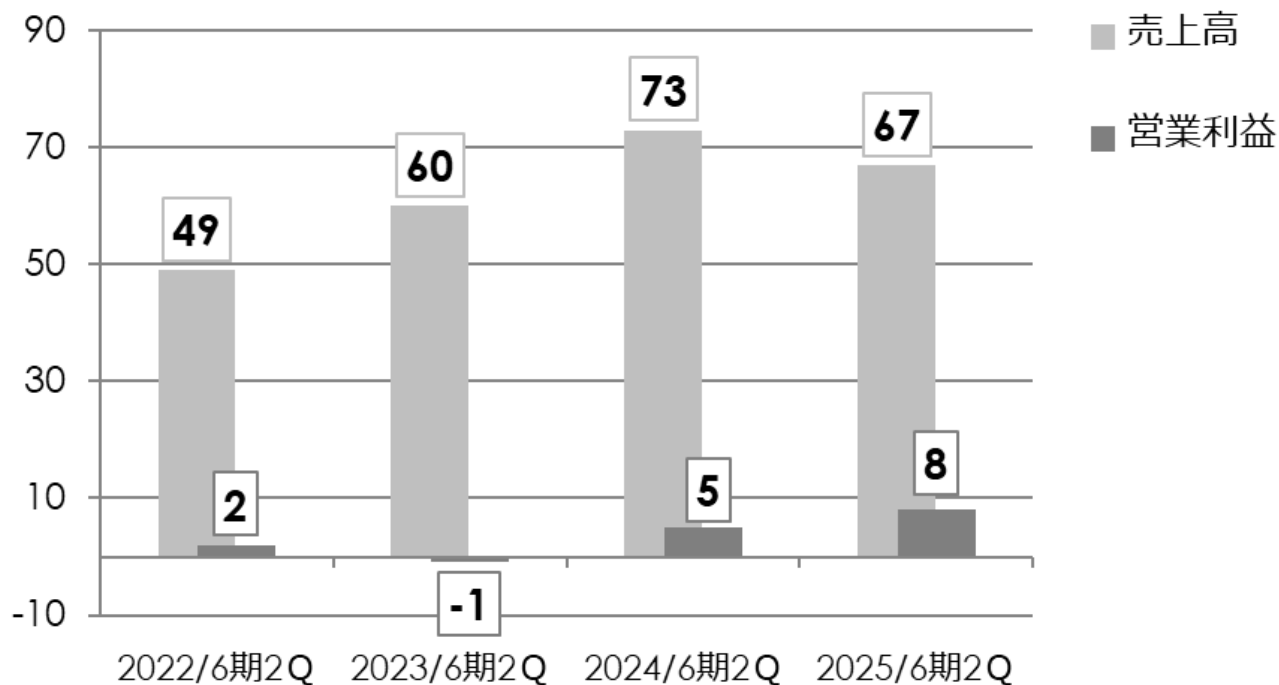


運送事業

- 受託業務を見直し、集約を進めたことで売上高は減少。利益については、外注配送から自社配送への切替を進めたことで前年同期を上回る。

(単位：百万円)

運送事業の売上高・営業利益の推移



※株式会社エス・ロジスティックスは2013年12月19日付で、国土交通省指定の全国貨物自動車運送適正化事業実施機関より「安全性優良事業所(Gマーク)」の認定を受けております。



今後の対応

いちご果実・ 青果事業

- ・着実に消費者に浸透している自社品種「夏瑞／なつみずき」の食味の良さを活かし、百貨店ギフト等、生食用を主体とした販売を継続。
- ・自社品種と国産他品種さらに海外産いちごも併用することで、夏秋期の安定的な果実の供給に努め、冬春期の販売につなぐ。
- ・促成いちごの販売時期（主に12～5月）において、採算性を重視した販売体制を継続。品種動向に対応し、全国の産地からの仕入体制を構築。

種苗事業

- ・当社の有する四季成性いちごの育種開発力、栽培技術を活かし、海外展開を積極的に推進。
- ・「夏瑞／なつみずき」、「コア」の優位性を活かした新規産地への展開と、作型・栽培管理方法の改善により秋以降の収穫量を確保し、近年の猛暑等の気象変動に対応。
- ・温度、湿度、光などの環境条件を制御した中での優良果実の生産方法の確立。

馬鈴薯事業

- ・海外オリジナル品種および一般品種の生産面積が減少していることを受け、適正な数量の仕入管理と販売単価の見直しを行うことで収益を確保。

運送事業

- ・新規荷主獲得のための営業を継続。
- ・人員の補充を図るとともに自社配送比率を高め、利益の向上を目指す。



2025年6月期

連結業績通期の見通し

連結業績通期予想

(単位：百万円)

	2025.6期 通期予想	2024.6期 通期実績	前期比 増減額	前期比 増減率 (%)
売上高	2,411	2,519	△107	△4.3
営業利益	62	32	29	91.2
経常利益	63	38	25	66.8
親会社株主に 帰属する 当期純利益	43	20	23	119.4

* 上半期の連結業績と下半期の業績見込みを勘案し、当初の通期連結業績予想から予想数値を修正しております。

本日はご多忙中のところ
誠にありがとうございました

